

事故種類	労働災害	発生日時	平成28年3月2日 10時30分	事故当事者	1次下請け
事故区分	墜落・転落	年齢性別	33歳男性	職種	普通作業員
被災程度(全治)	左足関節内骨折、左脛骨遠位端骨折(入院4週間)				
事故概要	洪水吐きのコンクリート打設中、コンクリートポンプ車の付け根の配管が損傷したため、配管内の圧力を抜いた後、被災者とポンプ運転手が車上に上がり、損傷した配管の交換作業を開始した。被災者は、安全帯を使用してボルトを緩める作業をしていたが、最初に外す曲り配管を受け取るために安全帯が邪魔になったため安全帯を外した。その後、ポンプ運転手が曲り管を固定しているジョイントを外し、被災者が曲り配管(コンクリート入り30kg程度)を受け取った際に、車上でバランスを崩し配管と共に落下し(高さ2.1m)、左足から着地して負傷した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・スポット作業届のKY活動では安全帯を着用することになっていたが、被災者は作業途中で安全帯を外した。また、ポンプ運転手も被災者が作業途中で安全帯を外したことに気付かなかった。 ※スポット作業届:通常の作業計画・作業手順にない不測の事態が生じた時など、急遽追加となった作業に適用するもの。 ・コンクリートポンプ車の上は、配管の交換作業を行う前提となっていないため、作業床が狭く体の向きを変えたり配管を仮置きするスペースが狭い。 ・コンクリートポンプ車ブームの根元は、作業体勢によって安全帯の掛け替え方法が煩雑な状況であった。 ・被災者は曲り管にコンクリートが入っていることは分かっていたが、重さが想像していた以上に重かった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートポンプ車の配管交換用の足場・手摺設備を作成し、打設作業時に打設場所近辺に準備する。 ・「安全帯の使用」で指差喚呼を徹底する。 ・新規に配管交換作業の作業手順書を作成し、再度周知を行う。さらに、スポット作業を想定した作業訓練(KYTなど)を実施する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急安全大会を開催し、事故事例を情報提供し、再発防止に向けた注意喚起及び指導徹底を行った。 				

事故状況図



改善策



指差喚呼による質の高い確認を！！

■指差喚呼とは
「確認箇所を指差して『〇〇よし!』と声に出して確認する方法」

1. 目で見る
2. 指で差す
3. 声に出して『〇〇よし!』
4. 耳で自分の声を聞く

→周りの作業員が復唱(喚呼応答)すると効果がさらに高まる

■効果(ボタン操作の誤り確率)

確認方法	どちらもし	指差確認のみ	喚呼確認のみ	指差喚呼
誤り確率	2.3%	0.7%	1.0%	0.3%

1/6以下に減少

⇒『安全帯の使用』で指差喚呼を徹底

- ・「掛けた際/外した際」に指差喚呼を行い、自分自身でミスをなくす
- ・周りの人もその声に耳を傾け、「掛けた忘れ」を指摘、外した際の注意喚起の声をかける



作業手順書を作成

「安全帯使用」で指差喚呼を徹底